

従来の460gから280gへと約40%軽量化し、びん強度を低下させる細かい擦り傷を防ぐため外表面に樹脂コーティング。また「持ちやすさ」「注ぎやすさ」を満足させるため、胴部に新しく「くびれ」をつけたデザインで、2000年度グッドデザイン賞／特別賞・ユニバーサルデザイン賞を初受賞。今回の「ロングライフデザイン賞」は、2度目の受賞となりました。

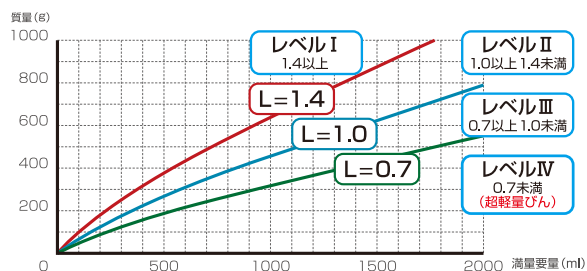
(出典：公益財団法人日本デザイン振興会)



世界トップレベルの軽量化を実現した超軽量びんも製造されています。

ガラスびんのリデュースが進む中、一層軽量化された超軽量びんも製造されています。超軽量びんとは、日本ガラスびん協会が定義した軽量度指数L値で0.7未満のびんのことで、世界でも最高水準の軽さです。また、この超軽量びんでも、規格を統一したRマークびんが製造されており、リデュースとリユースを兼ね備えたびんとして活躍しています。

$L値 = 0.44 \times \text{ガラスびん質量 (g)} \div \text{満量容量 (ml)}$ 0.77



(出典：日本ガラスびん協会)



超軽量びんシンボルマーク

最も軽量度の高いレベルⅣのびんを軽量化の象徴とし、すっきりと見やすいシンボルマークを決定いたしました。びんやラベルに印刷され、店頭でお目にかかれる日をどうぞ、お楽しみにお待ちください。

※登録商標

※JGBAは「日本ガラスびん協会」
「Japan Glass Bottle Association」



びん軽量化のメリット

ガラスびんの軽量化は、製びんの難易度は上がり生産効率も下がるのが一般的です。言い換えれば過度の軽量化は逆にコストアップの要因になることもあります。しかし、環境負荷を低減し地球環境を守るなど、さまざまなメリットがありますので、内容物の特性などを考慮しながら、できるかぎりの挑戦をしています。

省資源・廃棄物の減量

びんの重さが軽くなるということは、それだけ、使用原料が減るということです。また、廃棄物の抑制(リデュース)に貢献します。もともと天然素材100%であるうえに、回収されたあきびんを細かく砕いたカレットを75.9%(平成24年度)も使用しているガラスびんですが、今まで以上の省資源が実現されます。